



「美味しい野菜を食べてほしい」 農家の想いを届ける最速輸送



北海道の畑から 首都圏の食卓へ一直線！

世界中の空をつなぎたい想いを届けるJALグループは、2017年より株式会社農業総合研究所（以下、農総研）と連携し、採れたての野菜をいち早く届ける取り組みを行っています。

今年7月より、その新たな試みとして、北海道の新千歳空港と旭川空港に空港集荷場（農総研がJALに委託した農産物集荷拠点）を開設。それにより、北海道の畑から首都圏のスーパーまで、新鮮な野菜を半日で届けられるスピード輸送を実現しました。

通常、収穫された野菜は市場や仲卸などを經由し、トラックや船貨物列車で輸送され店頭に並びます。そのため、畑から食卓に上るまで、最短でも3〜4日ほどかかっていました。しかし、野菜の美味しさの鍵を握る糖度や熟度、そして鮮度は、時間の経過とともに下がってしまいます。

今回の取り組みでは、早朝に採れたトウモロコシを農家が空港集荷場に直接搬入し、JALが始発

便で首都圏に輸送。使用する航空コンテナは保冷できる特殊な器材のため、高温により野菜が傷む心配もありません。そして、その日のうちにスーパーに並び、その日の産地と同じような美味しさを保ったトウモロコシを、首都圏にいなから味わえるようになりました。

最速の流通に 農家の想いを届ける

「昨年、熊本から農産物の定期輸送を行った際に、農家の方から『野菜は鮮度が大事。大切に作っ

るからこそ、美味しい状態で食べ

てほしい」と伺い、我々物流も商品を作る一員なのだ実感しました。農家の方の想いに寄り添いたい一心で、もっと早く輸送できる方法がないかを考え、今回の空港集荷場の開設に至りました。農総研との新たな取り組みにより、農家の皆さまの想いも食卓に届けることができると思っています」と、JAL貨物路線部の川平永一郎。

また、最速輸送により市場や仲卸を經由することがなく中間マージンを抑えられるため、農家の方の収益が増え、地域経済への貢献にもつながるのではと、農総研の及川智正社長は語ります。

「私たちは、農業にITを組み込み、未来に持続可能な農産物物流のシステム作りを行ってまいります。目指すのは、ビジネスとして成り立ち、農家の方がやりがいを感じる農業です。今回、JALと連携することで、農産物の流通に革命を起こすことができました。ぜひ採れたてのトウモロコシを味わっていただき、新鮮な野菜の本来的な美味しさを楽しんでください」（及川氏）

これからもJALグループは、農産物をはじめさまざまな商品の「究極の流通スピード」を実現すること、新しいサービスの創出を続けてまいります。

「Challenge JAL」などJALグループのさまざまな取り組みは、下記JAL Webサイトでご覧いただけます。

www.jal.jp

文 / 松田美保 撮影 / 永井泰史



01.トウモロコシ農家の竹内さん。「北海道の新鮮なトウモロコシの味の違いを、多くの人に感じてもらいたいです」。02.農家の方から直接届けられた野菜は、JALが大切に運びます。